

1. 評価結果概要表

〔認知症対応型共同生活介護用〕

【評価実施概要】

事業所番号	4572000679
法人名	有限会社 すいせん
事業所名	グループホームすいせん高鍋
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江6649-145 (電 話) 0983-23-2351
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年3月21日

【情報提供票より】20年2月29日記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9 月 12 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 常勤 2 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 4.3

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋 平屋 造り 階建ての 1 階 ～ 1 階部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	なし		
保証金の有無 (入居一時金含む)	なし	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 円 昼食 円 夕食 円 おやつ 円		
	1,000円		

(4) 利用者の概要(2月 2日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2 2 名	
要介護3	2 名	要介護4 2 名	
要介護5	名	要支援2 名	
年齢 平均	89 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内田病院 浜本歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高鍋町の郊外で一般の住宅と農家が点在する静かで景観に恵まれた環境の中にホームは立地している。利用者は広い庭に面したウッドデッキで、春の日差しを受けてゆったりと居心地よく生活していた。又、家族の来訪が多く運営推進会議に参加したり、家族会を定期的に開催して意見を運営に反映する等積極的である。最近、管理者や職員が入れ替わり新しい体制が構築されつつあるが、全員で入居者のケアの向上に熱意を持って取り組んでいる。利用者の高齢化が進んでいるが明るく思いやりのある職員に支えられ、元気で安心して穏やかに暮らしている。

重点項目	① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員の体制づくりが整いつつあり、評価の意義やねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で取り組んでほしい。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員の退職もあって、全員による自己評価の取り組みは行われていないが、新しい体制づくりが整いつつあり、今後、全員の取り組みに期待したい。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月～3ヶ月に1回開催し、ホームの運営状況の報告や参加者との意見交換を行いサービス向上に活かしている。現状の運営推進会議のメンバーに地域代表を加えるとさらに充実した会議が期待されるので検討をしてほしい。
重点項目	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議に家族の出席者が多く、気軽に苦情や意見を言える雰囲気づくりに努めている。又、家族会も定期的に開催し、意見を運営に反映させている。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の住民や保育園の園児等との交流には努めているが、さらに自治会や老人会の行事に参加し、地域の一員として積極的な交流を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に貢献し、自立と尊厳を重視する」という事業所独自の理念が出来ている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングの中で理念を共有し、その実践に向けて全員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の住民や保育園の園児との交流に努力しているが、自治会の行事、地域活動への参加は少ない。	○	自治会に加入し、地域の一員として地域行事に積極的に参加して交流を深めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価のねらいや活用方法が全員に理解されていない。	○	職員の体制づくりが整いつつあり、評価の意義やねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で前向きに取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2～3ヶ月に1回開催し、ホームの運営状況の報告や参加者との意見交換を行いサービス向上に活かしている。		現状の運営推進会議のメンバーは利用者、家族、行政の職員となっているが、それに住民代表を加えてさらに充実した会議にしてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者が毎回運営推進会議に出席しており、それ以外でもホームの実情や取り組み状況を定期的に報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態をきめ細かに伝えている。ホーム便りも最近は毎月発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の出席者が多く、質問や意見を気軽に言える雰囲気作りに努めている。又、家族会も年に数回開催し意見交換を行い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の半分程度は定着しているが、全体的に離職者が多いのが現状である。	○	利用者にとっては、馴染みの職員が継続的に支える体制が望ましく、職員の定着化に向けた検討を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修には出来るだけ職員が受講出来るよう努めている。又、事業所内で月1回勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	児湯郡5町によるグループホーム連絡協議会に毎回出席し、勉強会や情報交換を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に管理者が本人や家族に会いに行ったり、ホームに見学に来てもらったりして徐々に馴染みながら利用に移れるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が一緒に掃除、洗濯、食事の準備等を行い、お互いの信頼関係を築き、共に支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や表情から、暮らし方の希望や意向を出来るだけ把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が地域の中で安心して暮らせるように、家族や関係者の意見、アイデアを反映した本人本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネジャーの交代や職員の異動等で最近介護計画の見直しは実施されていない。	○	本人や家族の意向や状況を確認しながら、毎月、見直しを実施してほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や送迎支援、外出の支援等本人家族の状況に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力病院をかかりつけ医としており、月に1回はかかりつけ医の往診があり、気軽に相談できる関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての対応方針や話し合いがまだ出ていない。	○	利用者の高齢化、重度化がかなり進行しており、対応方針について家族、医師、関係者を交え検討してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格を尊重し、信頼関係を築きながら、誇りやプライバシーを損ねないように対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの健康状態や思いに配慮しながら、自分のペースで暮らせるよう柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年齢のわりにみんな元気で、利用者と職員が同じテーブルを囲んで同じものを一緒に食べている。全員職員の介助が必要なく食事を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	高齢化や重度化が進行し、かなりローテーション面で苦労しているが、出来るだけ利用者の希望に合わせて入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの身体機能や趣味、希望に合わせて食事の後片付け、折り紙作り、園芸、外出等利用者が楽しみ事を見いだせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い庭で職員と一緒に散歩をしたり、川南町の関連のグループホームと交流もしている。	○	近くの店に買物に行ったり、外食、ドライブ等出来るだけ戸外に出かける機会を増やしてほしい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面を考慮して、日中は玄関と裏口に鍵をかけている。	○	本人や家族と相談して、鍵をかけずに安全に過ごせる方法はないか、検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回ホーム内で避難訓練は実施している。消防署の協力を受けての避難訓練や地域住民の協力体制がまだ出来ていない。	○	非常災害時の対応については、職員だけの対応では限界があるので、日ごろより地域住民や消防署に協力を働きかけてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量は毎日チェック表で管理し大まかに把握している。バランスの良い食事の内容となっている。		1日の栄養摂取量や水分量は大まかに把握しているが、専門的な観点から一度管理栄養士のアドバイスを受ける機会が得られると職員も安心ではないだろうか。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、全体的に広々として明るく余裕があり、広い庭に面してウッドデッキが配置されており、家庭的で居心地よく安心して生活できる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や身の回りの小物、家族の写真等が持ち込まれ、居心地よく生活できるように工夫がされている。		